

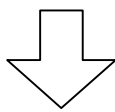
金属加工製品製造業 B社の財務状況

(金額単位:百万円)

(債権放棄前の財務状況)

B / S			
資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	100	仕入債務	700
受取債権	1,200	短期借入金	0
棚卸資産	400	割引手形	700
その他流動資産	10	長期借入金	3,600
		その他負債	30
土地	400	負債計	5,030
建物	500	資本金	80
機械等	1,000	剰余金	500
有価証券等	2,000	資本計	580
資産計	5,610	負債・資本計	5,610

P / L		
科目	金額	比率
売上高	5,000	100.0%
売上原価	3,900	78.0%
売上総利益	1,100	22.0%
一般管理費	1,050	21.0%
営業利益	50	1.0%
営業外収益	10	0.2%
営業外費用	120	2.4%
支払利息	120	2.4%
経常利益	-60	-1.2%
特別利益	0	0.0%
特別損失	0	0.0%
税引前利益	-60	-1.2%
法人税等	0	0.0%
当期利益	-60	-1.2%
減価償却費	130	2.6%



(所有資産の含み損)

土地	200
建物	200
有価証券	1,800
計	2,200

(時価ベースの実質B / S)

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	100	仕入債務	700
受取債権	1,200	短期借入金	0
棚卸資産	400	割引手形	700
その他流動資産	10	長期借入金	3,600
		その他負債	30
土地	200	負債計	5,030
建物	300	資本金	80
機械等	1,000	剰余金	-1,700
有価証券等	200	資本計	-1,620
資産計	3,410	負債・資本計	3,410

(時価評価での保全)

土地200、建物300、有価証券200の合計700

借入内訳	残高	シェア	保全
A行	1,600	44.4%	500
B行	1,100	30.6%	200
C行	500	13.9%	0
D信金	300	8.3%	0
E信金	100	2.8%	0
合計	3,600	100%	700

(保全不足の状況)

	保全不足	(割合)
A行	1,100	37.9%
B行	900	31.0%
C行	500	17.2%
D信金	300	10.3%
E信金	100	3.4%
合計	2,900	100%

(清算価値のB / S (保全債権処分後))

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	100	仕入債務	700
受取債権	450	短期借入金	0
棚卸資産	20	割引手形	0
その他流動資産	10	長期借入金	2,900
		その他負債	30
土地	0	負債計	3,630
建物	0	資本金	80
機械等	50	剰余金	-3,080
有価証券等	0	資本計	-3,000
資産計	630	負債・資本計	630

(受取債権1200 - 割引手形700) × 0.9 = 450

棚卸資産400 × 0.05 = 20

機械1000 × 0.05 = 50

(上記の減価率は推定値)

土地、建物、有価証券については、担保に提供しており、代物弁済もしくは、売却のうえ弁済

金融機関の回収額は、
630 × 2900 / 3630 = 503

(債権放棄後、初年度)

B / S

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	60	仕入債務	170
受取債権	350	短期借入金	50
棚卸資産	250	割引手形	50
その他流動資産	10	長期借入金	1,890
		その他負債	30
土地	50	負債計	2,190
建物	100	資本金	10
機械等	1,050	剰余金	-330
有価証券等	0	資本計	-320
資産計	1,870	負債・資本計	1,870

P / L

科目	金額	比率
売上高	3,000	100.0%
売上原価	2,100	70.0%
売上総利益	900	30.0%
一般管理費	850	28.3%
営業利益	50	1.7%
営業外収益	0	0.0%
営業外費用	60	2.0%
支払利息	60	2.0%
経常利益	-10	-0.3%
特別利益	1,500	50.0%
特別損失	2,400	80.0%
税引前利益	-910	-30.3%
法人税等	0	0.0%
当期利益	-910	-30.3%
減価償却費	100	3.3%
設備投資額	30	1.0%

返済財源(+ -)... 60

繰越損失があるため、法人税等は見込まず、経常利益 = 税引後利益として計算

【主な処理策】(金額は時価)

- ・保全不足額 29億円うち、13億円を債権放棄 (特別利益13億円)
- ・マレーシア現法(有価証券)を清算(2億円、特損18億円)、国内工場を一部売却(土地1.5億円、建物2億円、特損4億円)、機械を廃棄(特損2億円) (特別損失24億円計上) (資産売却収入5.5億円により、長期借入返済3億円、設備投資2.5億円)
- ・社長の資産を処分し、1億円借入返済に充当(求償権は放棄)
- ・既存株式を100%減資し、取引先や従業員が10百万円出資 (資本金80百万円 0円 10百万円) 長期借入17.1億円減少
- ・不採算製品から撤退、高採算製品に特化 (売上50億円 30億円に減少。) (売上原価率78% 70%に低減。)

2年目以降は、設備投資による生産力の増大により、売上高が向上。以下のとおりの経常利益となる見込

債権放棄の内訳

	放棄額	(割合)
A行	493	37.9%
B行	403	31.0%
C行	224	17.2%
D信金	134	10.3%
E信金	44	3.4%
合計	1,300	100%

保全不足額のシェアで按分

(再建計画終了時(5年後)のB / S)

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	70	仕入債務	230
受取債権	400	短期借入金	50
棚卸資産	250	割引手形	50
その他流動資産	10	長期借入金	1,210
土地	50	その他負債	30
建物	100	負債計	1,570
機械等	770	資本金	10
有価証券等	0	剰余金	70
		資本計	80
資産計	1,650	負債・資本計	1,650

	【経常利益】	【返済財源】
1年目	10	60
2年目	100	170
3年目	100	170
4年目	100	170
5年目	100	170

初年度長期借入金1,890 - 返済財源 170 × 4年 = 1,210

初年度機械等1,050 - (減価償却費 100 - 設備投資額30) × 4年 = 770

初年度剰余金 330 + 税引後利益 (= 経常利益) 100 × 4年 = 70 (債務超過は5年目に解消)

繰越損失があるため、法人税等は見込まず、経常利益 = 税引後利益として計算

B / S

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現預金	50	仕入債務	170
受取債権	180	短期借入金	50
棚卸資産	140	割引手形	50
その他流動資産	10	長期借入金	950
		その他負債	30
土地	50	負債計	1,250
建物	100		
機械等	800	資本金	100
		剰余金	-20
有価証券等	0	資本計	80
資産計	1,330	負債・資本計	1,330

【主な処理策】(金額は時価)

- ・保全不足額 29億円うち、19億円を債権放棄
(特別利益19億円)
- ・マレーシア現法(有価証券)を清算(2億円、特損18億円)、国内工場を一部売却(土地1.5億円、建物2億円、特損4億円)、機械を廃棄(特損2億円)
(特別損失24億円計上)
(資産売却収入5.5億円により長期借入返済5.5億円)
- ・社長の資産を処分し、1億円借入返済に充当(求償権は放棄)
- ・既存株式を100%減資。スポンサーが100百万円を出資
(資本金80百万円 0円 100百万円)
長期借入26.5億円減少
- ・不採算製品から撤退、高採算製品に特化するも、いくつかの取引先とは事業継続困難であり、売上は大幅に縮小
- ・事業規模縮小に伴い、従業員数200人 100人に削減
(売上50億円 20億円に減少。)
(売上原価率78% 72%に低減。)

P / L

科目	金額	比率
売上高	2,000	100.0%
売上原価	1,440	72.0%
売上総利益	560	28.0%
一般管理費	550	27.5%
営業利益	10	0.5%
営業外収益	0	0.0%
営業外費用	30	1.5%
支払利息	30	1.5%
経常利益	-20	-1.0%
特別利益	1,900	95.0%
特別損失	2,400	120.0%
税引前利益	-520	-26.0%
法人税等	0	0.0%
当期利益	-520	-26.0%
減価償却費	60	3.0%
設備投資額	20	1.0%

返済財源(+ -)... 20

繰越損失があるため、法人税等は見込まず、経常利益 = 税引後利益として計算

債権放棄の内訳

	放棄額	(割合)
A行	720	37.9%
B行	589	31.0%
C行	327	17.2%
D信金	196	10.3%
E信金	65	3.4%
合計	1,900	100%

保全不足額のシェアで按分